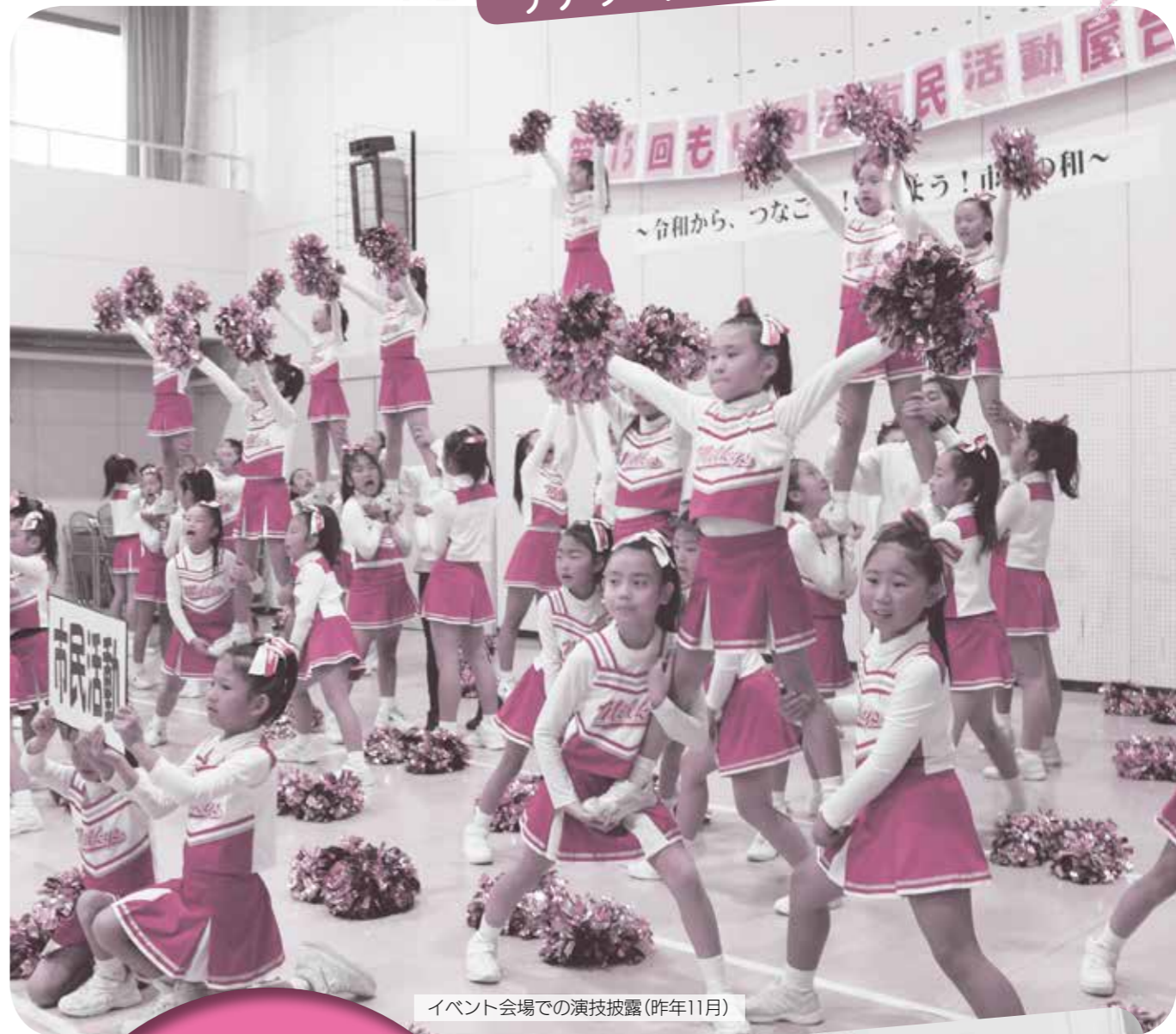


# わたしへはなやかにエール みんなへはなやかにエール

チアリーディング ミルキーズ



イベント会場での演技披露(昨年11月)



守山市在住メンバーの皆さん

スポーツの応援やイベント会場などで観る人を魅了するチアリーディング。  
今回は守山市・野洲市の子どもたちを中心に構成する、県内でも数少ないチアリーディングチーム「ミルキーズ」取材しました。

## 競技の楽しさを広げたい 守山でチームスタート

ミルキーズは平成19年に市民交流センター(さんさん守山)で発足、活動をスタートしました。創立メンバーの一人で大学時代からチアリーディングをやっていた村井三幸さん(44歳)が地元に戻ってきたとき、県内にはチアをやっているチームが一つもなかったそうです。

チアリーディングの楽しさを伝え、普及することを目的に東近江市と守山市にキッズチームを作りました。村井さんを含む大学時代の仲間3人(コーチ)と子ども7人の小さなチームでした。当時、子育て真っ最中だった村井さんは、小さな子どもの

大好きなお菓子の名前を参考にミルキーズと名付け、赤をテーマカラーにしました。

現在、ミルキーズには守山市と野洲市の子どもを中心に、5歳〜中学生まで約70人が所属。村井さんがコーチを務める県内の各チームと合同練習をしたり、スポーツ大会やイベントの依頼を受けて出演することも増えました。滋賀県を飛び出してエキスポまで応援に出掛けることもあります。

## 安全は仲間との信頼から 華やかさの裏にある努力

活動スタートから13年が経ち、県内にチアダンスのチームもできてきました。それでも、チアリーディングとして活動してい

るのは村井さんがコーチを務めているキッズチームをはじめ、滋賀学園(東近江市)の部活動など数チームしかありません。

チアリーディングには、スタンツという組体操の要素があるので、ダンスだけを抜き出したチアダンスよりどうしてもケガの危険が高いように見えるからかもしれません。同じ母親として、心配しながら見守る保護者の気持ちが分かるからこそ、一人でもふざけている子がいれば厳しく注意すると言います。

もう一つ、スタンツの安全を左右するのがメンバーの信頼関係です。信頼を築くため、練習では振りや演技を教え合い、大きな子には年下の子どもへの指導もしてもらいます。スタンツでは上に乗ることも下で支えるこ

とも経験します。

チアリーディングはダイナミックで華やかですが、演技には自分自身が主役になる側面と、誰かを応援するための側面を併せ持っています。流行語みたいですがワンチームにならないとダイナミックな演技を成功させることはできません。

## 女の子のたくましさで 自分もみんなも笑顔に

子どもたちを見守る保護者に話を聞くと「指導は厳しいけれど、練習を離れるとみんなのお母さんのようなコーチです。いろいろなスポーツがある中、女の子として輝けるスポーツなのが親としても嬉しい。アスリートではない女性としても守り指

導してくれています」「チアリーディングは責任感や協調性、たくましさも育つと思います。子どもなりに達成感や楽しさを感じているから続くのでしょう。本人の『やりたい』を尊重して良かったなと思います」などと話していました。

子どもたちも「仲間を信用し、協力して一つの演技を完成させるのがチアリーディングの魅力です。先生に頼られるようになります」「下の子に教えることで、自分も勉強になります。チアを通して観ている人が笑顔になれる演技をしたい」「大技でも他のメンバーに負けないようになりたい」「完璧なスタンツを決めたいなどと、競技にかけた。今後の抱負を話していました。

## チアリーディングって どんなスポーツ?

チアリーディングという言葉を知ったことがありますか。

高校野球やバスケット、アメフトなどスポーツの試合で、ポンポンを持った女子が華やかにダンスをしている場面を観たことがあるかもしれません。

応援のイメージが強いですが、チアリーディングはスポーツです。

ダンスとスタンツ(組体操のような要素)などを組み合わせた、華やかでダイナミックな演技が見どころです。



ミルキーズ練習の様子(右は村井コーチ)



仲間と支え合ってスタンツの練習



ダンスもチアリーディングの魅力